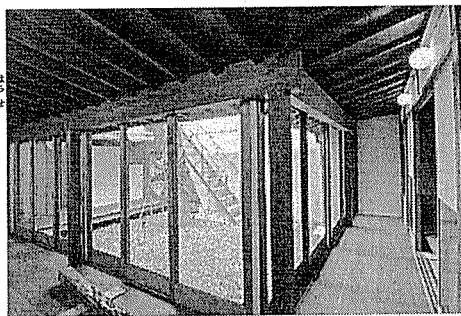


京町家活用シェアハウス

八清 老朽化大型物件を改修



八清が運営を始める「京だんらん東福寺」の中庭部分

不動産仲介の八清(京都市下京区)は、京町家を活用した「シェアハウス」の開発、運営を始める。老朽化した大型の町家を改修し、複数の男女が暮らす賃貸住宅にする。第一弾としてJRR東福寺駅近くの町家で3月から運営を始める。

約100平方メートルまでの町家については住居や店舗など活用方法は多いが、それ以上の大型物件については有効な手段が少ないという。シェアハウスにすることで収益物件として販売でき、町家の保存、活用につなげる。

外国人を含む20〜30代の独身男女をターゲットにし、入居審査で居住者を決める。担当者が定期的に巡回し、困りことや要望についての相談に乗る。ブランド名は「京だんらん」とした。

東福寺駅近くの「京だんらん東福寺」は、昭和初期に建てられた民家を活用。木造2階建て、延べ145平方メートル、個室6部屋と、共用の台所や風呂、トイレ、中庭がある。22〜35歳の男女が対象。家賃は月5万8千〜6万3千円で、光熱費などの共益費は同1万500円。2月10日から募集を始める。

今後は1年で1棟ずつ増やす計画で、同社は「見ず知らずの入居者が交流するおもしろさを感じてもらいたい。若い人が住むことで地域の活性化にもつながる」としている。(中村幸恵)